



つくばスーパーサイエンスシティ構想 実現のための6つの分野

▼今回は「移動・物流」分野での取り組みをご紹介します。

移動・物流

行政

医療

防災・インフラ・
防犯

デジタルツイン・
まちづくり

オープンハブ

つくば市プロフィール

東京から約50キロ

人口 約250,000人

研究者 20,000人
※研究従事者含む
(うち博士号8,000人)

150の研究機関・大学

外国人人口 約12,000人
(約150か国)



必要なとき、必要な場所へあらゆる移動手段を

つくばスマートモビリティの 実現を目指す

市内の様々なモビリティを統合し、自家用車に依存せず、
いつでも、どこにでも行ける社会の実現を目指します。
また、都市の様々なデータを連携させることで
新たなサービスを実装し、自家用車による
移動から公共交通機関の利用など、
市民の行動変容も促していきます。

日本最大の科学技術都市であるつくば市では、
社会全体が一人ひとりを包み込み、支えあう
「誰一人取り残さない」SDGsの精神の下、
世界最高峰の科学技術を結集し、デジタル、
ロボティクス等の最先端技術の社会実装と
都市機能の最適化を進めています。

つくば市は広範囲の可住地を有している一方で、周辺部では
公共交通が十分に整備できておらず、周辺部に住む人々は
自動車を運転して中心部まで移動しなければなりません。
移動・物流の分野では、様々なモビリティを自分のライフスタイルに
合わせて組み合わせ、どこに住んでいてもストレスなく移動することができる、
移動の自由の実現を目指しています。



【スマートモビリティエリア】

次世代モビリティが街に溢れる
「科学技術が日常に溶け込み、
イノベーションが生み出されるエリア」

つくばスマートモビリティに向けた取り組み(実証実験例)



ラストワンマイルの移動のために



パーソナルモビリティ シェアリングサービス



市内中心部は、商業施設等を徒歩で回遊するには各施設間が離れているため回遊性が乏しく、中心部の賑わいの減少が顕在化しています。パーソナルモビリティのシェアリングサービスを導入し、**中心部の回遊性を向上、まちの魅力向上**を実現します。また、利便性の向上と移動範囲の拡大のため、移動速度の規制緩和に取り組んでいます。

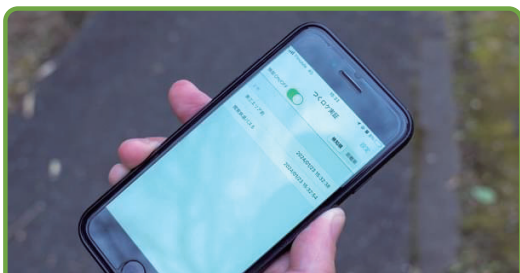


ドライバー不足解消のために



自動運転循環バス

市のコミュニティバスも減便するなど、運転手不足が公共交通を維持する上で大きな課題になっています。**自動運転バスの実装により、安全かつ持続可能な地域公共交通ネットワークの形成**を実現します。まずは、スマートモビリティエリアでのLv4自動運転バスの実装を目指します。



身軽な移動のために



ハンズフリー チケットサービス

障害のある方や子どもを連れた方などは、公共交通機関を利用する際にICカードをタッチすること自体に困難を抱えています。**様々な移動手段を手ぶらで、シームレスに利用することを可能にする「ハンズフリーチケット」**を実装し、高齢者、障害者、子育て世代等が不自由なく快適に移動できる社会を実現します。



親子の移動のために



こども MaaS

小さな子どもを連れた方などは、少しの移動でも困難を抱えています。**低速自動運転モビリティの導入で、複数人での移動を容易にし、子どもが安全に移動できる手段を提供することで、住民の生活満足度を向上させ、中心部の賑わい創出を目指します。**



都市と郊外をつなぐために



AIオンデマンド乗合タクシー

周辺部に住んでいる人は車を運転しないと移動が困難な状況です。移動困難者の移動を容易にするためAIオンデマンドタクシーの実装を目指します。前日までに予約をしないと行けない乗合タクシーと比較して、**スマホからいつでも予約可能となり、AIによって運行の効率化**も実現可能です。



重いものを運ぶために



自動追従ロボット



高齢者や障害者等は、買物やごみ出し等の日常生活における荷物の運搬が大きな負担になっています。**簡単な操作で人の後ろを追従し、荷物運搬をサポートする自動追従型のロボットを活用**することで、買物の荷物運搬やごみ出しを支援し、誰もが不自由なく生活できる社会を実現します。